

N09 他児とは別メニューでの学習が必要な子への対応

学習内容が、知的発達や言語発達段階に合っていないために、みんなと同じ学習をすることに大きな不安や抵抗を示したり、意見交換をしながら協力して課題解決していくような学習形態がとても苦手であるために、グループになじめなかったりする子どもたちがいます。

反面、図鑑や本などから多くの知識を得る学習方法が好きな子、ワークやドリルなどなら、もくもくと学習できる子たちもみられます。

どうしても学級全体と同じ学習・活動をすることが苦痛となる場合は、保護者との話し合いのもとに、別のメニュー（課題）を行うことも効果的です。

(1) 知的な発達が他児童と比べるとゆっくりであるため、同じ内容は分かり難い場合

児童生徒の実態をよく把握することが大切です。

全体学習の中で、部分的に参加が可能な場合。
科目によって、参加の状況が異なる場合。

他児と同じ学習をすることが、ほとんど困難な場合。

学習にかなりこだわりがみられる場合。

参加が可能な部分は、「ここまでみんなと同じ学習をするね」（ここまでできたらOKだよ）という目標を、本人としっかり確認しておきます。

終わったら、次に自分がやることを、分かり易く提示しておきます。

< のようなプリント等を用意しておく >（本人が出来る範囲の中で、やるべき事が分かっていることが大切です。）

科目によっては、作業内容を発達段階に合わせた課題に置き換えることが考えられます。（例えば、絵画の時間にぬり絵とか、作文の代わりに文章の写し取りとか。）

発達段階に応じた自力で出来るプリントを個別に作成しておきます。漢字ドリル等ならやれる子には、何枚か用意しておきます。特殊学級や低学年の先生に利用出来そうなプリントをもらうなど連携すると良いでしょう。型にはまった学習方法にこだわらず、好きな を利用した学習（例えば、電車が好きな子には、駅名を漢字学習に使うなど）へと方法を広げるとやれることが増えてきます。

(2) 興味のあることなら図鑑や本からたくさんの知識を得られるが、教師の話をかちんときいて理解したり、集団で行う学習形態には困難を生じる場合

教師の方を向かない。指示に従わない。

図鑑などが大好きで一人学習を好む。

教師の話や指示を聞いていないようにみえても、実は情報として取り込んでいる子がいます。このような場合は、「なにがなんでも教師の方を向いて聞かなくてはならない」等、一般的な学習スタイルにあまりこだわらずに対応したほうがよい場合もあります。

一人学習を得意とする児童生徒の場合は、本人と話し合っ、授業の範囲の中で、別課題を行うことを決めます。（例えば、資料調べ係にする、イラスト専門係にするなど）

また、「こだわり」が強く、授業内容と全く異なる課題をしたがる場合には、「授業に関する課題をここまでやったら、本人の課題をやっていいよ」というように約束を決めて実行するようにします。



<指導のポイント>

(1),(2)どちらの場合でも、クラス全体が、当該児童生徒が別課題で学習を進めていることを認め、本人なりに努力していることが周囲に分かるような手立てを講じる必要があります。周囲に理解され、認められていると感じることで安心感と自信が持てるようになります。